

talk! talk! talk! 芸人・小藪千豊さん



芸人 小藪千豊さん

「芸人イチのカメラおたく」を自称し、カメラをこよなく愛する小藪さんは、フィルムカメラ、デジタル一眼レフカメラを使い撮影を楽しむ。子どもの成長にカメラを向けて、小藪家の思い出を写真に収め、そのときの瞬間を色濃く残せることが写真の魅力の一つだという。カメラを使い始めたからは旅行も撮影中心になってしまうという小藪さんのカメラ・ライフをうかがいました

プロフィール

こやぶ・かずとよ

1973年9月11日生まれ、大阪出身。1993年 NSC大阪校12期生卒業後、コンビ・ピリジアンとしてデビュー。解散後、吉本新喜劇に入団。2005年なんばグランド花月にて「吉本新喜劇 川畑泰史・小藪千豊公演 がんばろっカナ!?キャンペーン」を開催。「上方お笑い大賞」第35回(2006)話題賞、「BGO上方笑演芸大賞」第2回(2006)脚本賞など数々の賞を受賞。2006年に吉本新喜劇の座長に就任。また、レイザーラモンと下ネタラップユニット「ビッグボルト」としても活動しており、自ら主宰している音楽フェス「コヤブソニック」は5年目を迎え、今年も9/29(土)・30(日)の2日間、大阪・舞洲での開催が決定している。舞台、テレビ、ラジオ、映画など多方面で活躍中。

Beginning 出会い

カメラとの出会いを教えてください。

当時の彼女(今の嫁)が古いフィルムカメラを見つけてきたので、ちょっと撮ってみよう、旅行に持っていったのが始まりです。そのときは写真のイロハも知らずにババッと撮影してみたんですが、後で知ったところそのカメラは絞り優先のもので、何となくふらっと撮っても、現像したら真っ白だったり真っ黒だったりと散々でした。フィルムを1本使い切ったのに、1/3ほどしかまともに写っておらず「何だこれは!？」と驚きました。せめてちゃんと撮りたいとカメラの基礎の本を読んで、まずは絞りの設定を覚えました。それだけでも随分まともに撮れるようになって、次に現像したとき、半分はちゃんと写っていて、これはちょっとおもしろいぞと思い始めたんです。

ハマり始めてからは、どんなカメラをお使いになりましたか？

偶然「奇跡の一枚」が撮れたことがあって、これを必然にするにはどうしたらいいんだろうと考えるようになりました。そのときフリーマーケットで見かけたフィルムカメラを手に入れて、これまでのカメラと全然違うように撮影できるものですから、どんどんとのめり込んでいったんです。背景がいい感じにぼけただけでも感動ものでした(笑)。光の当たり具合によって雰囲気ガラッと変わりますから、露出計で光の明るさを毎回測るので時間がかかって、被写体の人に「早よ撮れ!」と文句をいわれていました(笑)。その後、渋さに惹かれてNikon Fを購入しました。同時に現像用の機材やライトテーブルを揃えると、撮影の幅がぐっと広がりました。

Nikon Fでは、どのような写真を撮られましたか？

ベトナム旅行へ持っていったら、シャッターチャンスだらけなのですよっっちゃう撮影していました。でもまだまだ腕が未熟だったものだから、何十枚のうちに1枚見られる写真があればよかったですね。正直旅行自体より、帰ってきてから現像した写真を見ている方が楽しかったんです。

Pleasure 楽しみ

最近はどのような写真を撮られるのでしょうか？

子どもが産まれてからというもの、もっぱら子どもばかりを撮っています。上の子どもが生まれたときに、初めてデジタル一眼レフカメラを購入しました。機種はNikon D700です。子どもにも「動かないで」といっても無理なので、それまで使っていたフィルムカメラでは到底追いきれなかったんです。デジタル一眼レフカメラに変えたことで、ようやく動きを捕えられるようになりました。マニュアルモードで設定をいじる時間もないので、子どもを撮るときはプロシールドにするなど、これまでと変えなくてはいけない部分もあったのですが、子どもを撮るのはそれに勝る楽しさがあります。撮った写真は子どもの成長記録でもありますけれど、何より家族の思い出が形として残るのは嬉しいですね。「小藪家の写真」が増えていくのを見ると、カメラを覚えてよかったなーとしみじみ思います。

お子さんの自然な表情やその場の雰囲気を切り取った小藪さんの写真が家族の写真として残るなんて素敵ですね。

お恥ずかしい.....(笑)。でも子どもの撮影は本当に難しく、なかなか納得いく写真にならないです。とくに小さい頃は大変で、興味を引こうと思って声をかけるとパッと一瞬こちらを向いてくれるのですが、いざシャッターを切ろうとカメラを構えるとバイトと違う方を向いてしまう。以前子どもと大阪の名所をいっしょにまわって、その先で写真を撮ったときは、相当重労働でした(笑)。ファインダーの中に子どもとカニのオブジェを収めようとしたのですが、いい表情のときに限ってちよるちよると動いたり、何枚か撮ったら飽きてしまい「まだ撮るのー? さっき撮ったやん」と文句をいわれるんです(笑)。子どもにとっては写真って一枚撮ったら終わりという感覚ですから、毎度説得するのが大変です。



お子さん以外には、どんな写真を撮られますか？

東北一人旅行に出たときにもNikon D700を持っていきました。松島を巡る船に乗っている間、飛び立つカモメの姿を写真に収めようとしたのですが、これがまた大変で、なかなか最高の一瞬が撮れないんです。乗船中はずっとその場に留まって、片手にカモメのえさ、片手にNikon D700を構えていました（笑）。連写で撮り続け、これだと思えた1枚が撮れたときには、すでに3000枚を超えていました。フィルムカメラで撮影していた頃は連写なんて考えられなかったので、デジタル一眼レフカメラならではの手法ですよ。乗船中はずっとカモメばかり撮り続けていたので、松島の島々を一つも見えていないんです（笑）。

Photo's 作品紹介







Future これから

これから使ってみたいレンズはありますか？

なかなか素人で持っている人は少ないと思うのですが、AF-S 500mm f/4G ED VRレンズが欲しいです。今は、AF-S 35mm f/1.4Gのレンズを主に使っていて、子どもの運動会するときなどはAF-S VR 70-300mmのズームレンズを使用しています。でも子どもが幼稚園のときはトラックが小さいので持っているレンズでよかったのですが、小学校に入ったらトラックが大きいです。すると種目によっては、どんなに頑張っても小さくしか写らないんです。500mmレンズなら、走ってるときの表情までバッチリ押えられるので、手に入れたいんですよ。あとは逆に、超広角レンズも面白そうですね。写真は奥が深いので、このレンズがほしいといはじめるときりがありません！

本当にカメラがお好きなんですね！ お子さんの運動会ときには、とくにはりきって撮影してらっしゃるのですか？

運動会に関わらず、イベントごとにはガンガン撮影します。自分の子どもだけじゃなくて、子どもの友だちの写真も撮るので毎度膨大な数になってしまいます。撮った写真は現像してみんなにあげるんで、子どもの友だちが僕を見つけると、「写真撮ってくれる人」と認識しているのか、何もいっていないのにピースやポーズをとってくるんです（笑）。以前運動会ときには、子どもの友だちが走っているところはバッチリ押えられたのに、いざ自分の子どもの番でシャッターを切ったら、何が悪かったのか地面にピントが合ってしまったことがあります。カメラは本当に奥が深い……（笑）。

イベントでお子さんを撮られる親御さんは多いですが、小籾さんは一線を画していますね（笑）。

世の中のお父さんやお母さんには、ぜひカメラの説明書を熟読してほしい！ 今のカメラは高性能ですから、何となく撮ってもそれなりに仕上がりますが、機能を知っていると全然違います。せっかくかわいい我が子を撮るならちゃんと残したいじゃないですか。僕もまだまだ、日々勉強です。

小籾さんにとって、お子さんを写真に収めることは、どんな意味をもっているのでしょうか。

子どもとのつながりというか、コミュニケーションのひとつですね。親として、愛情を伝えられるツールなんだと思っています。家族の思い出を撮ることで、より強い思い出になりますし、後になって写真を見返せば、そのときの感情がすぐ蘇ってきますから。

小籾家の思い出がこれからも写真に収められていくのが楽しみです。ありがとうございました！



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。